

## 平成29年度 第1回 白山市環境審議会記録

日 時 平成29年5月19日（金）午前10時00分～午前11時25分

場 所 白山市役所4階 402会議室

出席委員 新委員（会長）

伊川委員（副会長）

美作委員 清水委員 森委員 麻植委員 佐野委員

※欠席 中里委員 中出委員 廣瀬委員

事務局 広野市民生活部長 三谷環境課長 北補佐 半田補佐

瀬川専門員 四田主幹

10:00 開 会

10:02 部長あいさつ（別紙）

10:06 委員紹介

事務局紹介

10:10 会長選任

会長あいさつ（別紙）

10:13 副会長選任

副会長あいさつ（別紙）

10:15 議 件

平成29年度環境施策の概要について（別紙）

10:42 質疑応答（下記）

11:25 閉 会

委員の紹介

○事務局

次に委員の紹介に移ります。

— 各委員自己紹介 —

議件

○事務局

—平成29年度環境施策の概要について—

●委員

資源回収はどこで主催しているか。

○事務局

子供会で実施

●委員

鶴来地区の街の清掃日と、子供会の資源回収の日程が重なる。日程はどこで決めているか。

○事務局

市では回収された量に応じて上期と下期で奨励金を出している。

日程は各団体で決めており、市では決めていないし、指示も出していない。

●委員

鳥獣保護に抵抗を感じる。

福井からのシカ、イノシシ、サルなど有害鳥獣問題があるため。

白山ろくの木木の保全として、大きくなりすぎも良くないし、循環型の木木の一生のサイクルの形成ができるようにと考えている。

地域の美しい水を保っていくことが重要。

狩猟資格もっているが、なかなか檻にシカが入らない。

カモシカは、いきなり現れて、こちらが驚く。

●会長

国の鳥獣保護の法律及び管理並びに適正化に関する法律とあるが、「管理」という概念が入って大きな転換期となった。

適正な人間社会との調和を、また適正な数に管理するために、狩猟範囲の拡大等の政策が出てきている。

県でも、管理して増えた頭数の調整のためジビエ料理により、狩猟した命の利用の取組みも増えてきている。

●委員

石川平野は地下水と密接な関係であり、七ヶ用水が血管のように水を平野に送っているが、用水が涸れるとおそらく地下水もなくなる。

農業や森林については、携わっている人以外は、あまりわかっていない。

平成19年か20年に、県立大で、国の補助事業として白山の水の循環の調査があったが、当時石川平野の地下水循環についての担当をしていた。

●会長

手取川扇状地の地下水は、白山市のみならず石川県の財産である。

地下水の涵養は重要な問題である。

国、県、市、市民団体共同で地下水問題について考えていきたい。

●委員

ごみの減量啓発映像は、どのように活用するか。

借りることができるのか？また、予算はいくらか。

せっかくなので、子供たちにもわかりやすいものにして欲しいと思う。

○事務局

ごみ減量の映像作成については、平成29年度でDVDを作成し、市のまちかど講座での使用や、町内会や公民館で環境講座を行うときに貸出しを予定している。

予算は70万円。内容は、ごみの減量化。（生ごみも減らす方向）

まだ中身については検討中で、委託業者も未定である。

皆様や、関係部署の意見を聞きながら作りたい。

●委員

海岸漂着物の除去について、平成27年度は10月、2月に、平成28年度は8月、11月に実施しているが、実施時期はタイミングなのか、決まっているのか。

どんなものが、どれくらい漂着しているのか。

○事務局

例年、漂着物の多かったタイミングではなく、春先にクリーン作戦や海岸清掃があるので、それ以降の海水浴シーズンが終わった後や台風後に漂着物が増える（台風後は大型なものも）ので、定期的の実施している。

県の補助もある。

○事務局

量については、2回あわせて80トンから90トンで、主に流木が多い。

ボランティアでの実施は手選別のため、回収されるものに制限があるので、この除去作業では重機を使い、業者委託している。

●会長

ごみの減量化の映像は、視聴者となる予定の人の意見を聞いて作ると良いものができると思う。

●委員

70万という予算は、相当少ないと思う。

●委員

何分くらいのものを作るのか。

○事務局

15分から20分。(長いのも、短すぎるのも良くないので)

●委員

ごみ袋有料化について触れるのか。

○事務局

触れない。

●委員

あさがおテレビで、定期的に映像を流して欲しい。

○事務局

あさがおテレビの協力も依頼予定。

市のホームページでも動画閲覧できるようにする予定である。

●委員

子供会には廃品回収のkgあたり補助があるが、町内会には。

住民も町内会の回収に出さなくなった。

玄関前で回収してくれる新聞社や、いつでも出せるスーパーに出している。

町内会の収集時間は日曜日の午後3時から5時と短いので不便である。

(町内会で決めることではあるが)

○事務局

市からは、町内会に属する子供会への補助のみで、町内会には補助なし。

子供会に補助するのは、環境学習の面を兼ねているからである。

町内の資源ごみ回収に、いろいろ制限があってやりにくいというのは、今後の課題としてとらえていきたい。

なお、スーパーの拠点回収は、市から依頼しておらず、スーパーの顧客サービスの一環として行っている。

回収品目もスーパーごとに異なる。

●委員

資源ごみをいつでも出せるところを、白山市は作っていないのか。

## ○事務局

白山市は、随時持っていけるところはない。

リサイクル事業者が、市内3か所で受け入れしている。(営業時間内)

市のホームページにも公開している。

野々市市役所の庁舎裏のスペースの例を、言われるのだと思う。

白山市では月2回の回収のため、自宅の保管スペースがある。

昔はそのスペースがある家が多かったが、今は少ないので不便。

ただし、白山市は市域が広く、経費もかかるので何か所も作れない。

今の対応としては、民間事業者を紹介しており、市での設置には至っていない。

## ●委員

スーパーは好意でしているからか、すべてを回収していない。

スーパーの協力を得て、何でも回収できるようにして欲しい。

そうすれば、市の回収スペースを作らなくても良いと思う。

## ○事務局

全種類何でも回収となると、スペースがある。

地域で分けなければならないし、市役所や支所敷地でないと難しいので、今はできない。現状の、スーパー、地域、子供会でお願いしたい。

## ●会長

委員の皆様は、水環境、森林保全、鳥獣保護管理、廃棄物リサイクルについて関心が高い。

地球温暖化防止についても大切だと思う。

シカ、イノシシが人里に増えてきているのも、温暖化の影響だと思う。

水環境についても、温暖化が進むと手取川の水量減少も懸念されている。

白山市としても地球温暖化防止について、引き続き取り組んで欲しい。

## ●委員

濁水の影響調査の最新の情報は。

## ○事務局

国で崩落個所の工事は昨年、今年と実施中である。

濁水の影響について、現在もあるかどうかの調査結果の報告はなし。

濁水で土砂が溜まっているかについては、年1回の川泥掃除の様子を見ると、平成27年度は10月に臨時回収をしたが、平成28年度は通常の5月のみなので、特に影響がない。

ただし、トミヨの生息状態は影響があったと思われるので、今年調査する予定。

県立大学の調査も、平成28年度、平成29年度と2か年実施しているのである程度の結果が出ると思う。

●委員

水田の水はりが良かったのでは。

○事務局

美川の冬期湛水の効果があったと思われる。

秋に下がっていた地下水位も、3月、4月に7割から8割まで上がってきた。

●委員

良かったのであれば、市内全域で実施したら良いのでは。

○事務局

地下水位が戻っていないなら、冬期湛水地域を増やす必要があるが、今は効果があるので、美川地域のみで実施し。状況をみながら検討していきたい。

●委員

手取川の金沢側から能登半島にかけての海岸線に、影響があったか。

千里浜は手取川から流れてきた土で形成されているという。

昔、手取川ダムができる前だが、YS11型飛行機に乗って小松から新潟へ行ったが、当時は能登半島をカバーするほど赤土が流れて砂浜を作っていた。

手取川ダムができたのが原因で、砂浜が浸食しているのではとの自論である。

○事務局

3月に県立大学での研究発表で、能登（千里浜）にいくほど沖に土砂が少なく、砂浜形成に至っていないとのことだった。

手取川ダムの影響は分からないが、水量の関係もあるかもしれない。

事務局からの連絡事項

○事務局

今年度3月に、東海北陸で“ものづくり”を学ぶ高等専門学校の学生が、鶴来地域において、地域の自然を活用した小水力発電のアイデアコンテストを開催する予定となっている。

高専の学生が、自身の技術及び地域社会への関わりを学ぶ事業で、地元の方、市民の方に参加を呼びかけることになっているので、改めてお知らせする。

皆様のご協力をお願いしたい。

○事務局

本日は金曜日の午前に会議を開催したが、欠席委員の中に午前の都合が見つからない方がいた。

今後の会議開催に向けて、皆様の中で都合のつかない日程（曜日、午前・午後も含めて）等があれば、事務局まで連絡して欲しい。

閉会

●会長

これをもちまして、第1回環境審議会を終了します。お疲れ様でした。

—以上—